

平成 28 年 02 月 21 日 (日) 施行

## 第 181 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

### 第 1 問

1. 「元入れして営業を開始した」→資本金

(借) 現金 (資産) の増加 建物 (資産) の増加	(貸) 資本金 (純資産) の増加
--------------------------------	-------------------

2. 掛仕入

(借) 仕入 (費用) の発生	(貸) 買掛金 (負債) の増加
-----------------	------------------

3. 売掛金の回収、約束手形の受取→受取手形

(借) 受取手形 (資産) の増加	(貸) 売掛金 (資産) の減少
-------------------	------------------

4. 仕入返品

(借) 買掛金 (負債) の減少	(貸) 仕入 (費用) の減少
------------------	-----------------

5. 小切手・掛売上、同店振出小切手→現金

(借) 現金 (資産) の増加 売掛金 (資産) の増加	(貸) 売上 (収益) の発生
---------------------------------	-----------------

6. 商品券の発行

(借) 現金 (資産) の増加	(貸) 商品券 (負債) の増加
-----------------	------------------

7. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生	(貸) 従業員預り金 (負債) の増加 現金 (資産) の減少
-----------------	------------------------------------

8. 取得原価 ¥750,000 を ¥830,000 で売却したので、売却益 ¥80,000 (収益) が増加する。

(借) 当座預金 (資産) の増加	(貸) 有価証券 (資産) の減少 有価証券売却益 (収益) の発生
-------------------	---------------------------------------

### 第 2 問

1. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表

資 産 41,120,000	負 債 20,300,000
	期首純資産 (ア)

期末貸借対照表

資 産 40,900,000	負 債 19,800,000	期末純資産 21,100,000
	期首純資産	
	当期純利益 (エ)	

- (ア) 期首資産＝期首負債＋期首純資産の関係より

$$\text{期首純資産} = \text{¥}41,120,000 - \text{¥}20,300,000 = \underline{\text{¥}20,820,000}$$

- 期末資産＝期末負債＋期末純資産の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}40,900,000 - \text{¥}19,800,000 = \underline{\text{¥}21,100,000}$$

- (エ) 期末純資産＝期首純資産＋当期純利益の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}21,100,000 - \text{¥}20,820,000 = \underline{\text{¥}280,000}$$

## 2. 売上原価と売上総利益

仕 入		損益計算書	
期首商品 850,000	売上原価 (イ) 13,230,000	売上原価 (イ) 13,230,000	純売上高 17,800,000
純仕入高 13,350,000	期末商品 970,000	売上総利益 (ウ) 4,570,000	

(イ) **売上原価＝期首商品棚卸高＋当期純仕入高－期末商品棚卸高** の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}850,000 + \text{¥}13,350,000 - \text{¥}970,000 = \underline{\text{¥}13,230,000}$$

(ウ) **純売上高－売上原価＝売上総利益** の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}17,800,000 - \text{¥}13,230,000 = \underline{\text{¥}4,570,000}$$

### 第3問

2月2日 藤津商店から仕入 @¥7,000×150個＝¥1,050,000

(借) 仕 入 1,050,000	(貸) 買 掛 金 1,050,000
⇒仕入帳	⇒仕入先元帳

2月5日 藤津商店に対する買掛金の支払

(借) 買 掛 金 1,000,000	(貸) 当 座 預 金 1,000,000
⇒仕入先元帳	

### 第4問

1月6日 商品の仕入

前月繰越 (50個×@700) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{前月繰越 } 50 \text{ 個} \times @700 = 35,000 \\ \text{仕入分 } 300 \text{ 個} \times @710 = 213,000 \end{array} \right.$$

として併記する。

1月12日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す200個中、先に仕入れた50個(@700)を全て払い出す。

残りの150個分を、後からの仕入分(@710)で払い出す。

300個中150個払い出すので、残りは150個(@710)

1月15日 商品の仕入

仕入前残高 (150個×@710) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$\text{仕入前残高 } 150 \text{ 個} \times @710 = 106,500$$

$$\text{仕入分 } 100 \text{ 個} \times @720 = 72,000$$

として併記する。

10月20日 商品の払出

先入先出法なので、払い出す190個中、先に仕入れた150個(@710)を全て払い出す。

残りの40個分を、後からの仕入分(@720)で払い出す。

100個中40個払い出すので、残りは60個(@720)

## 第5問

### 決算整理事項

#### 1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より 210,000

(借) 仕 入	210,000	(貸) 繰 越 商 品	210,000
繰 越 商 品	360,000	仕 入	360,000

#### 2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は 600,000

$$600,000 \times 1.0\% = 6,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は  $6,000 - 5,000 = 1,000$

(借) 貸倒引当金繰入	1,000	(貸) 貸 倒 引 当 金	1,000
-------------	-------	---------------	-------

#### 3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は 1,200,000、耐用年数 5 年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$1,200,000 \div 5 = 240,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減 価 償 却 費	240,000	(貸) 備 品	240,000
---------------	---------	---------	---------

#### 4. 現金過不足の処理

2,000 を雑益(収益)として処理する。

(借) 現 金 過 不 足	2,000	(貸) 雑 益	2,000
---------------	-------	---------	-------

#### 5. 引出金の処理

引出金の金額 50,000 を資本金から控除する。

(借) 資 本 金	50,000	(貸) 引 出 金	50,000
-----------	--------	-----------	--------